

出典：沖縄の染織物 13 | 琉球の彩りあふれる染織物 | 特集 | 沖縄観光情報 WEB サイト おきなわ物語 (okinawastory.jp)

13種類のうち、7種類をのせています。もっと知りたい人は↑を検索してみてね。

そめもの

## 1. 染物



### 琉球びんがた

沖縄を代表する染色技法で、びんは色、がたは模様という意味です。古典紅型柄の鳳凰や龍、鶴などは、中国や本土の影響を受けたといわれ、デイゴや魚といった沖縄の自然や風物が取り入れられた新しい文様も生まれています。

そめおりもの

## 2. 染織物



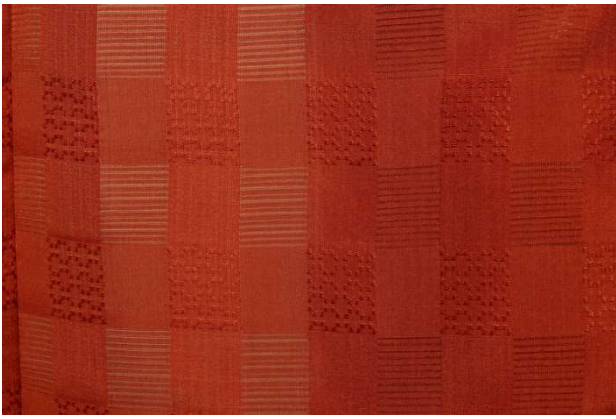
### 八重山上布

八重山・石垣で主に生産される八重山上布。琉球王朝時代には貢納布として織られました。島人の積み重ねてきた技術は精巧で、白地に赤茶色の染料で拵模様を捺染(なっせん)した麻織物は、通気性に優れ、天然の色合いと素朴な拵柄が魅力です。



### 芭蕉布

芭蕉布(ばしょうふ)は、沖縄の織物の中でも最も古い織物といわれ、大宜味村喜如嘉(おおぎみそんきじょか)が主な産地です。糸芭蕉から繊維を取り出し、繊細な手仕事を経て糸を作り、織り上げます。その手技は国の重要無形文化財となっています。



### 首里織

那覇市首里に伝わる首里織は格調高く洗練された織物です。中でも花倉織は、最も格式の高い織物で王家の妃、王女が着用したといわれています。他に平織に経糸を浮かせた道屯織(ろーとんおり)など美しく多種多様な織りが特徴です。



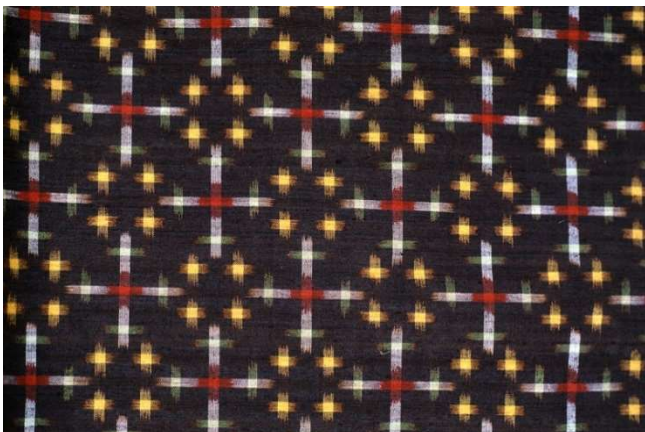
### 琉球絣

南風原町一帯で作られる絣織物を限定して呼ぶ琉球絣。染めと織り、手間と暇をかけて出来上がる繊細な琉球絣は「日本のかすりの源流」ともいわれ、琉球王朝時代の「御絵図帳」(みえずちょう)にある約600種類の図案が使われています。



### 八重山ミンサー

5つの柄と4つの柄と配する絣模様が特徴。「いつ(五つ)の世(四つ)までも末永く」という想いが込められています。ミンサーという言葉は「綿(ミン)で織られた幅の狭(サー)い帯」から来たといわれています。



### 久米島紬

素朴な風合いと植物染や泥染めによる独特な色調が魅力の久米島紬。図案作りから仕上げまでの全工程を一人の織子が務めるといいます。泥染めすることで光沢を増し、渋い色味の美しさをより際立たせます。